

埼玉・オハイオスカラシップ 奨学生, 親善大使レポート 4月 ラストスパート

こんにちは。このレポートはフィンドレーでの留学を終え、帰国した日本で執筆しています。振り返れば10か月とても短かったように感じます。

4月には、キリスト教の祝日の中で最も重要な意味を持つ、キリストの復活を祝うイースターがあります。これもサンクスギビングと同様、家族で集まり、パーティーを開く家が多いようです。私もイリノイ州の友人の家でイースターのパーティーに参加させていただきました。友人の親戚一同に囲まれて料理を楽しんだり、バスケットボールで1対1の勝負をしたり、留学最後のホリデーを満喫しました。

・州都コロンバスでの成果報告

留学最後の大きなイベントとして、オハイオ州の副知事をステートハウス(議事堂)に表敬訪問しました。ステートハウスは伝統的な建物そのものが美しく、近代的な建物が並ぶコロンバスでも異彩を放っていました。表敬訪問時に16代大統領エイブラハム・リンカーンに関する展示を行っており、内部はさながら博物館のようでした。また、副知事とお会いした部屋には、リンカーンがオハイオを訪れた際に使ったとされる机があり、アメリカの歴史そのものに触れた気がしました。

副知事との会話は、思いのほかカジュアルなものでした。留学中どこへ行ったか、いつ帰るか、帰る前にどこへ行くかなどを話した後は、音楽の話になりました。クリーブランドでちょうど行われているロックンロールの殿堂の式典に副知事が参加された話をしてくださいました。フィンドレー市長とお話した際も音楽に関連した話題が出たので、ここでも音楽の話がでるとは意外でした。

この留学期間中、オハイオ州副知事及びフィンドレー市長とお話する機会を頂きました。非常にカジュアルでフレンドリーというのがお二人に共通した印象です。場の雰囲気も非常にリラックスしたもので、とても話しやすい環境でした。

その後、場所をジョブズオハイオに移し、留学中に学んだ事をテーマにプレゼンテーションをしました。ジョブズオハイオ(Jobs Ohio)はオハイオ州の経済開発を行っている団体で、日本の企業誘致にも関わっています。このプレゼンテーションは、今回の留学の集大成ともいえるべきもので、ニッシンブレイキオハイオでのインターンシップやフィンドレー大学での活動、アメリカでの経験など、今までの自分の活動を振り返る良い機会になりました。



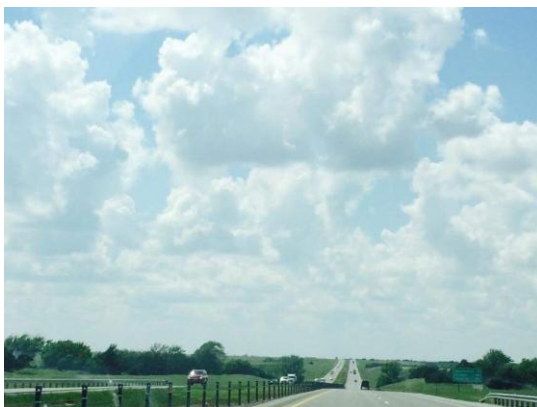
ステートハウス前にて

・グランドキャニオンへの旅

全てのプログラムが終了した帰国直前の5月初め、フィンドレーからグランドキャニオンまで、4日かけて車で旅をしました。総走行距離はおよそ3,200kmで、これは日本列島の南北の長さと同じぐらいの距離です。アメリカが広い国であることは地図を見れば明らかではありますが、実際に車で走ってみることで、場所によって気候や風土が大きく異なることが肌で分かり、その広大さをより実感することができます。

オハイオ周辺は平地が主ですが、ミズーリ州のセントルイスを抜けると突然山道になりアップダウンのある道が続きます。また土の色が赤みを帯びた色に変わります。次に景色が大きく変わるのはオクラホマ州のオクラホマシティです。ここから再び平野になるのですが、今度は大きな木や建物がほとんどなく、開けた景色が長く続きます。地平線が見え、空がとても広く見えます。そしてニューメキシコに入るころには緑がだんだんと減ってきて、荒野が広がります。目的地のアリゾナ州グランドキャニオン国立公園周辺は緑がほとんどなく、背の低い草が生えているぐらいでした。

グランドキャニオンの感想は、「何もない」という事に尽きます。崖の縁に立つと、もはや地面すら無くなってしまい、めまいを感じます。あまりにも比較するものがないため、谷がどれだけ深いのかもよくわからなくなります。これほどスケールの大きい「何もないさ」を感じられる場所は、アメリカ広しとはいえ、ここだけではないでしょうか。



地平線まで続く道とグランドキャニオン